

# 日本エネルギーホールディングス、売上高3倍の30億円に

太陽光発電所のEPCを手掛ける日本エネルギーホールディングス（岡山市、藤木慎太郎社長）は2023年

12月期の売上高を前期比3倍の30億円まで伸ばした。自家消費案件で実績を伸ばしており、24年12月期は50億円を目指す。

同社は高圧受電施設への自家消費案件を34件手掛け、約20億円を売上げた。大手の遊技場運営会社からまとめ受注した。22年までが、電気工事や土木工事の資格を取得し、太陽光発電設備のEPC会社へ転身した。同社の藤木慎太郎社長は、「工事まで請け負うことで、自家消費提案のコスト低減を進めていく」と話す。



藤木慎太郎社長

同社は長らくオムロン製PCS（パワーコンディショナ）を扱っ

てきただけに、自家消費提案における経済効果試算をオムロンに委

託。藤木社長は、「オムロンさんの協力もあって大手企業にも受け

入れてもらえるようになった」と話す。同社は60件以上の自

家消費案件を受注する傍ら、「非FIT」の低圧太陽光発電所の用地を200カ所確保し、系統用蓄電所の用地開発も進めている。

## 中・ジスコ 産業用蓄電設備を日本で初出荷

太陽光パネルなどの再生エネルギーは、2023年には約100億kWh、前年比約1.5倍に増加した。再生エネルギーの出力変動に対応するため、蓄電設備の需要が急増している。

中・ジスコは、再生エネルギーの出力変動に対応するため、蓄電設備の開発を進めている。再生エネルギーの出力変動に対応するため、蓄電設備の開発を進めている。



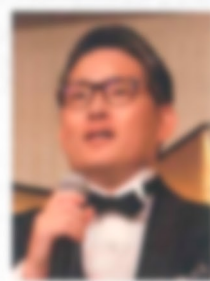
中・ジスコが開発した産業用蓄電設備

## アーク、創立20周年記念式典開催

アークは、2003年に設立された再生エネルギーの総合事業者。20周年記念式典を開催し、再生エネルギーの普及を推進していくことを誓った。



アークの20周年記念式典



アークの代表者

アークは、再生エネルギーの普及を推進していくことを誓った。再生エネルギーの普及を推進していくことを誓った。